

## 第34回 かたの環境を考える委員会

### 概要

- ・日時：2012年2月20日(月) 18:30～21:30
- ・場所：交野市役所 本館3階 第1委員会室
- ・内容：パブコメを受けたプロジェクト修正、作業チームごとの準備作業、ほか

### 進行・内容

18:30 交野市環境保全課長より開会の挨拶。

18:31 全体ガイダンスと本日の議題確認、新しく委員会に参加された人の自己紹介を行った。

18:38 計画書に載せる「委員会からのメッセージ」について、原稿案を全員で検討した。



### (出された意見)

- ・1段落目「行政だけでなく市民とのパートナーシップ」「行政だけでなく市民、事業者とのパートナーシップ」にしてはどうか。
- ・「行政だけでなく市民との 市民だけでなく行政との」の方がいいのでは。
- ・今まで行政だけで行われがちだったものを変えるという意味からこのままでよい。
- ・3段落目、「幾度の会議を重ねて 幾度も会議を重ねて」の方がいいのでは。
- ・下から4段落目、「しかし」を取った方がいいのでは。
- ・4段落目に「放射能汚染」を入れた方がいいのでは。
- ・「ごみ問題など」とし、「放射能汚染」はわざわざ入れなくていいのでは。
- ・趣旨が違うのでは。原子力のような大きな問題をここに入れるのなら、2～3年後にもう一度考えてはどうか。
- ・後段の「市民一人一人の努力」につながるものとして、放射能汚染はどうしようもないので、あえて入れなかった。(起草者の意見)

### (結論)

- ・1段落目「行政だけでなく市民とのパートナーシップ」「行政だけでなく市民、事業者とのパートナーシップ」に。
- ・3段落目、「幾度の会議を重ねて 幾度も会議を重ねて」に。
- ・下から4段落目、「しかし」を取る。
- ・4段落目は「ごみ問題など」とし、「放射能汚染」は入れない。

次に、計画書に掲載する委員名簿、一言メッセージについて環境保全課より説明があった。

計画書に載せる委員の名前については、一回でも関わった全ての方に連絡して名前掲載の可否を問い、可の返事があった方のみ掲載する考えである。中間発表会後に委員会に参加されている方については、そのように記載したいと考えている。本日出席の方で、名前の掲載を希望されな

い方については、このあと事務局まで申し出てほしい。また、本日、一言メッセージを持ってきた人は提出をお願いします。後日提出の方は環境保全課まで、可能な限り早く提出してほしい。最終締切は2月29日。

19:05 環境保全課長よりパブリックコメントの結果説明。

19:10 グループワーク プロジェクト修正

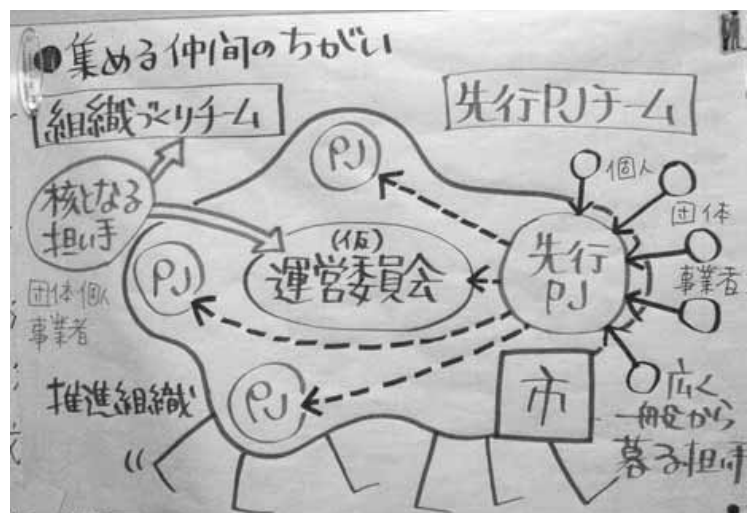
20:20 環境市民より作業チームの活動について補足説明

先行プロジェクトチームは、個々のプロジェクトに関心を持って一緒に活動してくれる仲間を集めるための講座を企画する役割。組織づくりチームは、環境基本計画を推進するための組織の核となる団体や個人を集め、推進組織の形を作る役割。どちらも仲間集めをするチームだが、集める相手と集まった相手に何をしてほしいかが違う。



中心になる役割を担うのが、組織づくりチーム。組織の形を考えるのは、本当は全員であるべきことだが、全員で一から話す時間をとるのは厳しいので、組織づくりチームにみんなで考えるための議論を整理してもらい、それをもとに、全員でどんな組織にしたいかを考えていきたい。

このあと、グループの議論が残っているところは、引き続き話を続けて、プロジェクト順序の決定とプロジェクト修正を今日中に終わらせてほしい。組織づくりチームと計画書作成PRチームは20時35分から話を始め、先行プロジェクトチームは、全員が揃っていないと話がしにくいので、今日は休会とする。先行プロジェクトチームの方は、組織づくりチームの議論と一緒に加わってほしい。



20:35 作業チーム毎ワーク

並行して、エコ生活グループとまちづくりグループはグループワークを継続。

21:00 作業チーム発表と全体での相談を行った。

計画書作成・PRチーム

- ・表紙のイラストをさらにブラッシュアップした。
- ・交野市のイメージをより体現できる、字の大きさと書体について話を始めている。

組織づくりチーム

・委員から吹田市の推進組織について紹介があった。札幌市が作成した推進組織に関する資料を配付。次回までに委員は読み込み意見を出せるようにしてくる。

・4月以降の取り組みについて

4月以降もスムーズに進めてゆくための委員、人員を各グループから選出してもらうことを検討し始めた。

21:25 事務連絡

- ・次回の委員会では、4月以降の体制について検討したいので、各自で意識を持っておいてほしい。
- ・最終回には、できあがった環境基本計画(案)を市長に手渡すセレモニーを予定している。完成を祝う会も計画したい。

21:30 終了

## グループ議論の詳細

### 【エネルギーグループ】

#### 1. パブリックコメントの結果報告

エネルギーグループ(分野)の課題としてあげていた「省エネルギーをすすめよう」に対して、「省エネルギー、省CO<sub>2</sub>をすすめようとしてはどうか」とという意見があった。

行政の返信案のように、省エネルギーをすすめることで、CO<sub>2</sub>の削減もすすめていくとの考えがあることから、課題の再設定まではせず、現行のままとする。

#### 2. プロジェクトの修正

##### (1) タイトル

プロジェクト名の表記について、全プロジェクトのうち、エネルギーグループの「そらいけ！ソーラーパネルプロジェクト」を含む3つのプロジェクトがタイトルの末尾に「プロジェクト」をつけている。不揃いだとする声があることに対し、「そらいけ！ソーラーパネルプロジェクト」の末尾の「プロジェクト」をはずし、「そらいけ！ソーラーパネル」とすることになった。

一方、プロジェクトシートのタイトル欄に「プロジェクト名」または「プロジェクトタイトル」などの表記を入れる。

##### (2) 内容

「そらいけ！ソーラーパネル」について、「エネルギーの地産地消等の実践等により」の位置づけを、波及的效果から、目的に移すとの案に対して、現行のままでいくことになった。

##### (3) 活動内容

第一段階 2) 先行事例の研究 が何の事例研究かわかりにくいので、「太陽光発電機普及の先行事例の研究」とする。

##### (4) 評価の基準

「ソーラーパネル」という表記があるが、タイトル以外は「太陽光発電機」で表記を統一する。また、「計画期間終了時に、」を削除する。

##### (5) 「星のまち エコドライブ」と「風を活かしたまちづくり」は変更なし。

#### 3. 写真・図表について

・「そらいけ！ソーラーパネル」の右ページに、ゆうゆうセンターの写真、関西電力の交野市域における余剰電力買電量の推移、委員自宅設置パネルの発電量グラフを掲載する。各自よりそれぞれ送ってもらう。

・「星のまち エコドライブ」の右ページに、図表を選択して掲示する。

・「風を活かしたまちづくり」は、担当委員より送付してもらう。各々期限 22 日。

## 【エコ生活グループ】

### 1. プロジェクトの修正

(1) 生ごみを堆肥化しよう

・評価の基準：「農産物が販売されている」「農産物が生産されている」

(2) とかいなかライフプラザ

・環境を前面に出すよう、プロジェクトを全体的に改定。

・活動内容：第3段階の農業者養成部分については、まちづくりの「とかいなかで農とふれあおう！」と連携することとし、このプロジェクトからは削除した。

(3) 売ってエコ 買ってエコ

・評価の基準：「平成18年度を基準に家庭系ごみが減少している」

「一人当たりのごみの排出量が年々減少している」

(理由) 人口の増減に影響されないため。

(4) やる気が出るエネルギーダイエット

・評価の基準：「1990年度比」「平成2年度比」

### 2. プロジェクト順と実施期間の設定

質問：それぞれが考えたプロジェクトを実施段階においても担当し、一斉に進めていくのではないのか。

おそらく一斉には動かさない。1つのプロジェクトを現在のメンバーから最低2~3人+新メンバーで実施していく予定。新メンバーを集めるため、講座などを実施して宣伝する。

1段階目	2段階目	3段階目	4段階目	5段階目
めざせ！ エコ達人				
	エネルギー ダイエット			
	事例研究	売ってエコ 買ってエコ		
	生ごみ堆肥			
	ニーズ調査		とかいなか ライフプラザ	
	場所探し		かたのエコ研修 センター	
				攻略マニュアル

### 3. 計画書に使用する図表等について

#### (1) 生ごみを堆肥化しよう

- ・現在、使用している焼却場の写真、ごみ組成調査グラフ、ごみ組成調査の特徴的な写真

#### (2) とかいなかライフプラザ

- ・図表等は記載しない

#### (3) 売ってエコ 買ってエコ

- ・エコバックを使用して買い物をしている写真、外国での量り売りの例

#### (4) やる気ができるエネルギーダイエット

- ・交野市環境家計簿（表紙、さあエコチェック、必須記入）、家庭からのCO2排出量 用途別内訳

#### (5) めざせ！かたのエコ達人

- ・市で過去に行った環境講座の写真

#### (6) 「かたのエコ達人への道」攻略マニュアル

- ・図表等は掲載しない

#### (7) かたのエコ研修センターをつくろう！

- ・まちかどエコエコ地球館、手作りリサイクルグッズ

### 【まちづくりグループ】

#### 1. パブリックコメントの意見について

まちづくりグループへのパブリックコメント意見は以下の4点あった。

##### (1) 「自転車のマナー向上大作戦」

賛成の意見、関心があるとのメッセージがあった。

##### (2) 「自転車が似合うまち・かたの」「誰もが利用しやすいバスを走らそう！」

プロジェクトの評価基準についての意見を反映させて、評価基準を変更した。

##### (3) 「地域ぐるみ エコで子育て・親育て」

エコ生活分野との兼ね合いについて意見があった。次の通り回答する。

- ・環境教育はすべての分野に共通するもの。まちづくり分野であることを留意しつつプロジェクトはつくっている。実施段階においても同様である。

##### (4) 「地域ぐるみエコで子育て・親育て」

賛成の意見。応援したいとのメッセージがあった。

#### 2. プロジェクトの表現の修正について

全てのプロジェクトにおいて環境の視点がわかりやすいような表現に変更した。

各プロジェクトの主たる修正点は次のとおり。



(1) 「とかいなかで農業を」

- ・ 「農業」という言葉を、一般の人にも当てはまりやすくし、「とかいなかで農とふれあおう！」というタイトルにした。
- ・ 第2段階に「農にふれあいたいと思っている人」を入れた。

(2) 「かたの満喫エコツアー」

- ・ 活動主体：個別の組織へ呼びかけを調整することが難しいことと、農業委員会は直接関連しないことがわかったため削除。
- ・ 対象：こども、学生を分ける必要はない、土地所有者を限定して対象にする必要はない、抽象的なリラックスを求めている人という表現は必要ない、という点を考慮し、削除。
- ・ 第1段階 「みんなの活力課と協働し」は原課と調整ができていないため削除。
- ・ 第2段階 個別の団体を「物産販売関係団体」と、広く捉えられる表現にした。
- ・ 評価基準：「環境を大切にしたい観光客」の数値は、把握が難しいので、「ツアー参加者数」にした。

(3) 自転車のマナー向上大作戦

- ・ 問題点：「環境」の視点がわかりやすくなるよう表現を変更
- ・ 評価の基準：「講習会の参加者数が累計1万人以上になる」を「のべ1万人以上」とする。

(4) 自転車の似合うまち・かたの

評価の基準：「自動車の保有台数の減少」を評価基準としていたが、「自転車の使用頻度の増加、レンタサイクルの利用者数増」とする。

(5) 誰もが利用しやすいバスを走らそう！

- ・ タイトル：「誰もが利用しやすいバス・交通体系をつくろう」とする。
- ・ 「ゆうゆうバス」など、個別のバス名や「バス」という表現を避け、「利用しやすいバス」という表現を「交通体系」という文言とする。
- ・ 活動主体：社会福祉課をはずす。交通事業者という文言とする。  
みんなの活力課を入れる。
- ・ 波及効果：交通弱者という表現を省く。
- ・ 第3段階：「市民が主体となって生活に密着した誰もが気軽に利用できる交通体系」という意味合いをわかりやすく表現する。
- ・ 第4段階：バスだけの狭い範囲で考えるのではなく、交通体系を考える表現とする。また、交通体系全体を考えて「バス運行にふさわしい道路整備を考えてゆく」を削除。
- ・ 評価基準：利用しやすいバス等の交通体系が実現しているかどうかをみる。

(6) 地域ぐるみエコで子育て・親育て

子ども中心の問題点が挙げられ、子育てプロジェクトと混同される可能性があったため、地域ぐるみで子どもたちへの環境教育をすすめてゆくという表現にする。

- ・ 目的：「子どもたちへの環境教育を進め、」という表現とする。
- ・ 活動主体：農業関係者、市民全体を意識した表現とする。

- ・波及効果：「みんなで子どもを見守っていこうという地域づくりが進んでいく」を入れる。
- ・第2段階：何をやりたいのかわかりやすい表現にした。
- ・第3段階：範囲を限定しなくてもいいという考えから小学校区内という表現を「地域で」という表現にする。全市展開を意識した表現とする。
- ・評価基準：範囲を限定せず、地域ごとという意味の表現とする。

### 3. 問題・課題の整理について

まちづくり分野の問題・課題について、整理をした内容を各自で確認し、問題があれば22日までに、コーディネータに連絡することを宿題とした。

### 4. 各プロジェクトの図表検討

- ・プロジェクト1と2の写真は提出済み
- ・プロジェクト3と4は、中間発表会で使用した写真(自転車教室4枚と走行中写真2枚あり)から各2枚を選びキャプションをつける。
- ・プロジェクト5は、堀委員手作り地図と、同じ地図(交野便利マップ)とを至急コーディネータ宛に送る。
- ・プロジェクト6は、送付済み写真(芋掘りの写真)2枚を使用。

## 【自然環境保全グループ】

### 1. パブリックコメントの結果報告

自然環境分野では二つの意見が提出されたことが報告された。その内容は、(1)共生という言葉の扱いについて、(2)ナラ枯れ対策について。市としての考え方が示され、プロジェクトには修正を加えないことを確認した。

### 2. プロジェクトの修正

プロジェクトの内容について、精査した。

#### (1) 里山を知ろう、里山大好きプロジェクト

- 1) タイトル：「プロジェクト」という言葉は外し、「里山を知ろう、里山大好き」とする。
- 2) 問題：「山が荒れている」を、次のとおり変更した。

「竹林の侵蝕や樹林の整備不足により、山が荒れている。」

#### (2) 実践！里山保全活動

- 1) 問題：「里山を知ろう、里山大好きプロジェクト」と同様とする。
- 2) 活動内容：第2段階の3「里山保全活動に必要な仕組みを考える。例：間伐した木や竹等の利用、たけのこ掘り等。」と表現を変更する。



### (3) 山の持ち主と活動団体の縁結びプロジェクト

- 1) タイトル：「里山を知ろう、里山大好きプロジェクト」と同様に、「プロジェクト」という言葉は外し、「山の持ち主と活動団体の縁結び」とする。
- 2) 問題：「里山を知ろう、里山大好きプロジェクト」と同様とする。

### (4) 生きものいっぱい！豊かな川づくり

- 1) 対象：「地元住民」を削除し、「市民」とする。
- 2) 活動内容：第31回委員会での議論を受けて、第1段階の2に下記を追加する。  
「川の清掃、河川の周辺への植栽、水辺の生きもの保全等を行う、河川環境保全団体相互の連絡、協調を目的としたネットワークをつくる。」

## 3. 計画書に掲載する図表の検討

各委員が準備・整理した写真を、どのページにどのように掲載するかを決定した。まだ足りないのは、森林での活動風景や里山の動植物の写真。役割分担をし、担当者が締切までに提出することとした。



## 4. その他

プロジェクトを精査する中で、下記の意見が出された。

- ・里山は環境教育の場として活用がされていない。
- ・里山整備には地主の協力が必要なので、まずそれをしなければ。
- ・里山の役割をどのように受け止めるのか。
- ・森林や竹林の整備はどこまでやるのか、何を持って整備とするのか。どういう里山が理想なのかを明らかにする必要がある。

プロジェクトをつくるこれまでの過程で、整理してきた問題・課題の内容をふりかえり、そういった議論を踏まえて、実際の活動を進めていきたいことを確認した。

また、問題の中に、「里山の大切さが市民に知られていない」を加えることにした。

### 作業チーム議論の詳細

#### 【計画書作成・PRチーム】

#### 1. 表紙のイラストについて

- ・右上から右下へ、弧を描く第2京阪道路を橋脚をとり、星ふる川にする
- ・星のブランコを交野三山の中央に移動する。
- ・左の鳥をキジに〔交野市の鳥〕



- ・織姫キャラを 右上と左下にいれる。
- ・彩色して、2月27日に完成させる。

2. 計画書の書体 ならびに 字の大きさについて  
特に意見なし

### 【組織づくりチーム】

今回は、先行プロジェクトチームも入っての短時間での会議となった。組織づくりチームの役割について、再度確認してから本題に入った。



#### 1. 本日のテーマ

- ・推進組織のあり方について
- ・4月以降の推進体制について

#### 2. 議論内容 推進組織のあり方について（フリートーク）

- ・吹田市のNPO法人すいた環境学習協会の組織が紹介された。

理事長を筆頭に、SGC・環境学習・市民文化・事業活動の4つのグループと事業活動クラブがあり、別途企画委員会およびリーダー連絡会・事務局で構成されている。

- ・環境市民より6事例を含む推進体制の資料が提供された。

・市から4月からの会議の企画等の母体となる組織についても検討してほしい旨の説明があった。

例として、生駒市では各部会（グループ）から3人ずつの運営委員が出て、会の運営に当たる体制がつけられたことを確認した。

#### 3. 次回の予定

各自で環境市民からの資料に目を通し、推進組織の案をそれぞれ考えてくる。それをもとに議論する。

また、4月からの推進体制についても議論する。

### 【先行プロジェクトチーム】

今回は開催せず。

以上